

## 俺は醫か

著者	北之園，寛繁
雑誌名	龍南
巻	2 0 2
ページ	6 7 - 6 9
発行年	1927-07-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8955">http://hdl.handle.net/2298/8955</a>

# 俺は誓ひ

北之園 寛・繁

五月の緑影濃い日  
椎の木の瑞々しい切株から  
無垢なゼーラフの唇を見つけ  
灰白い微かな流れが  
海と空とを一つに融かして  
渦巻いて流れる汀に  
水しぶき立つ  
ほのかな夢を結び  
して又はにかみつゝ  
朝露にしつとりぬれた  
二つの夢をゆり覺まし  
草も木も風も涙も  
歡喜に満ちて亂舞する

大初の光の中で  
賑はしい雀のゴージャスに  
大膽に和して踊つた！  
嘗ての朝よ夕よ晝よ。  
其の一切を壯嚴な嘆きと化せしめたのは誰だ  
セレネやエオスやヌスの  
さても尊い慈悲を  
泡沫に歸せしめたのは誰だ。  
そして遂に萬物を動搖させ  
世界を誓となしたのは誰！！  
お前だ。  
いやあなただ。

涙を流して彼を救はふとする時

あなたは意地悪い損得勘定をさした。

血を流しても復讐しやうといふ時

あなたはあなたの命と譽の爲に私を咎めた、

信愛の本心の要求を貰かうとする時

あなたは狂ひと冷笑し

あなたの未來の榮譽を懸念した。

丸いもの永いものを要求する時も

四角な定規を強制した。

私の一切の要求願望を否定し

彼をセメント造りの人間となした。

——常にあなたの未來の懸念の爲に——

一切の神意を無にし

彼をころし

彼の交渉を持つ凡てを殺した。——あなただ!!

いや。御前だ。

御前は彼を狂人になしたのだ。

お前は全く盲目だ。

お前は不節制だ。

俺の忠言に耳を貸した事がない。

お前の愛は盲目だ。我儘だ。或時は恨だ。

お前の信は、疑だ。偽だ。

喜。悲。さへ無茶苦茶だ。

盲目と我儘とが御前の萬能だ。

お前が彼をして殺さしたのだ。

先づ彼の持つ一切の彼の交渉を。

而る後彼自らを!!

動搖と不安と嘆息とが

今や彼の持つ全体。

理性!。感情!

皆んなマヒして了つた。

彼は瞽だ!!

彼の世界は眞白だ。——瞳がないのだ、

細長い魔女の腕に操られた

蒼白いゴシックの殿堂に

尙もがいてる——微かな太初的光を求めて、——

敬虔にひざまづいて

冥して祈りする、

然しアモルの銀の矢は

的と反対な過去に向つて放たれたのだ。

再びエスヌが興へたと思つた

ゼーラつのしなやかな手は

忽ち鬼婆々の夫だ。

抜け落ちた齒のすき間から

氣味悪いぬくもつた息を吹掛けつゝ、

冷笑してゐるのだ。

否、彼のアバラボネに食ひ入つて

生々しい血を吸ひたいと言ふのだ。

めしひになれ。

全く瞳を失ふことだ。

ともされたローンクを何故消さぬか。